

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19592530

研究課題名（和文）病気の不確かさ尺度（成人用）の開発

研究課題名（英文）Development of a uncertainty in illness scale (Adult Form)

研究代表者

野川 道子 (NOGAWA MICHIKO)

北海道医療大学・看護福祉学部・教授

研究者番号：00265092

研究代表者の専門分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：尺度 不確かさ 病気

1. 研究計画の概要

日本の患者が認知する病気の不確かさを把握するために、入院、通院を問わずに使用できる病気の不確かさを測定する尺度（成人用）を開発する。目的達成のために次の3つの研究課題を置いた。(1)インタビューや患者手記などをもとに質問文の作成 (2)質問紙調査に基づく質問項目の選択と信頼性・妥当性の検討 (3)複数の患者集団に適用して信頼性・妥当性の検討

2. 研究の進捗状況

研究課題(1)、(2)は達成し、(3)を進めているところである。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

研究課題に沿って述べると、(1)では患者手記10編、インタビュー34名から193個の質問文を抽出し、50個に絞ることができた。(2)では(1)で作成した質問文をもとに調査票を作成、有効回答535名を得て、26項目6因子(①生活予測 ②情報解釈 ③病気の意味 ④病気の性質 ⑤病気回復 ⑥闘病力)の尺度を完成させた。尺度全体の α 信頼係数は0.94、6因子は0.93~0.79の範囲であり、STAIやPOMSとの基準関連妥当性も確保された。(3)では血液透析患者182名から有効回答を得て、不確かさの特徴を把握するとともに信頼性・妥当性が確認された。

4. 今後の研究の推進方策

心筋梗塞後の患者や糖尿病患者に適用して、病気の不確かさの特徴を明らかにするとともに、引き続き信頼性・妥当性の検討を行う。

5. 代表的な研究成果

[学会発表] (計 1件)

①野川道子、舘山光子、二本柳玲子、佐々木栄子、唐津ふさ、西村歌織、雉子谷知子、病気の不確かさ尺度(日本人用)の開発、日本慢性看護学会誌第3巻、1号、A75頁、2009年。